

日時：平成29年11月21日（火）20：00～

場所：ふれあい歯科ごとう

出席者（敬称略）：五島、羽賀、豊田、齊藤

ワーキンググループ名から。商標権はどうか、良いのがあれば良いが何をしていくか、今まで新食研に薬剤師いたが活動が乏しかった。薬剤師が食支援に絡んでこない、薬剤師がこんなことまでできるんだというところ。

問題解決と、こちらからムーブメントを起こすか。その両方

薬、栄養のイメージがない。ターゲットは薬剤師に向けるか→薬剤師自体が食支援に関心が乏しい。

食支援に私たちは関与しているんだ、という認識。

摂食嚥下に関心が出始めたところ。薬剤が飲みにくいと言われたときに、食事はどうなの？という一言運動。京滋摂食嚥下では、薬剤師が関心を持ち増えた。薬剤師にメリットがないと乗ってこない。

薬局勤務の栄養士が増えている。薬局の栄養士の活用を。外部に行って勉強する。栄養士は自社内での研修システムがない。お金になるシステムをつくらないとならない。訪問指導ではフィーしない、サプリメントや栄養剤でも粗利が出ない。単体で稼げない。栄養ケアステーションで頑張っているが。栄養士の働くフィールドに、このあたりも薬剤師、薬局との絡みでなんとかならないか。薬剤師と栄養士のコラボで成果を出したい。

→コラボした結果、事例を集める。レトロではなく研究計画を立ててプロスペクティブに行ってみたらどうか。MNA（簡易栄養状態評価）を利用して、スクリーニングをかけてひっかけてみてはどうか。数値化されているものを利用してみる。体重がわからないというのが、変化を知りたいため評価ツールとして、結果を見えるようにする。：栄養評価

→薬局の活用、健康サポート薬局のとりくみ？

薬局勤務の栄養士も悩んでいる？薬局の、栄養士と絞ってもいいか。

コラボをちゃんと考える。

薬剤師が食支援に関わるイメージ：服用薬から食事に悪影響がないかどうか、それを投げていくか。栄養士に声をかけてみよう！

薬剤師が地域で食支援、薬局という機能での食支援

→ターゲットが変わる。薬局だと地域での活動

薬剤師だと、薬物療法の対象者になる。薬剤師に対するアプローチはどうしよう。どうすれば意識、興味を持ってもらえるか。最初は個人ベースで良いだろう。

栄養士とのコラボ：次回のエイヨ新宿で五島先生にお声かけいただき日程決める。

次回、この会「齊坊主（仮）」12月4日（月）19：00～